

# 原水禁世界大会の報告会開催

平診九条の会

かべしんぶん

2015年9月号

(通算22号)

発行：平診9条の会



9条の会で育てているあさがおは、今年は例年に比べ出来がが悪いですが、素敵です。

八月一日、平和診療所リハビリ室で開催、三五名の職員や患者さん、地域の方々が集まりました。今回は、その報告をします。

三宅翔太郎さん(事務職員)の司会で開始。松井邦男芦別原水協代表(勤医協芦別社員支部長・芦別市会議員)が開会のあいさつで

「戦争法案が国会で審議中だが、自衛隊が核兵器輸送もできる」という安倍政権の判断です。『核兵器をなくす』『戦争はしない』『安倍首相はやめよ』という国民の声と運動が広がっています。この



の清水彩希さんからもあいさつがありました。

## 秋山直香さん(看護師)の報告

たくさんのカンパをありがとうございます。原爆の悲惨な状況をたくさん聞いて学んできました。もし当時、私が看護師として働いていたら、何ができただろうと考えさせられました。今でも被爆で苦しんでいる人がたくさんいます。

子どものとき全身の原爆で火傷を負い、現在も核兵器廃絶のため頑張って語り続けている被爆者の力強さに励まされました。

分科会は「原発と核兵器」に参加し、平和公園・原爆資料館を見学しました。原爆資料館は小学一年生の時以来二度目でしたが、やはり暗く、怖かったです。大会には、日本人だけでなく外国人もたくさんいることも心強く思いました。これからも私の体験を語り継いでいきたいと思います。



芦別からも運動を広げていきましょう。」とあいさつ。勤医労

芦別支部執行委員長

## 中田智大さん(事務員)の報告

「原水禁世界大会を終えて、私たちが出来ること」

今回参加するに当たり、二つの目的を持ちました。一つは、被爆体験者から直接お話を聞き、原爆と戦争の実態を学ぶこと。二つ目に、参加者がどのような思いで参加し、感じたことやこれからのことについて意見交換することです。



分科会「青年のひろば」で被爆体験者の声を聞いた。「昔は『どうやって生きるか』ではなく、『どうやって死ぬか』を教えられた」「生きている被爆者のなかには、ずっと隠し通してきただけなかなかい出せない人もいる」「今のままの日本だけで欲しい。選挙にも積極的に参加して欲しい」

「核も戦争も必要ない。そこには理屈はない」とこれらの言葉には重みがあり、よく伝わりました。

意見交流もしました。私の感想として、核の悲惨さ、戦争の現実が身にしみて実感しました。そもそも戦争がなければ人は死ぬことはなかった。戦時中は人は人でなくなる。そんな極限状態を経験なんてしたくない。若い人にもつとこのことを知らせたい。健康まつりでは、もつと若い小・中高生にも訴えていきたいと思います。

最後に、高橋司検査技師が、「八・三〇行動の提起をし、報告会は終了しました。」



アベ政治と  
戦争が  
許さぬ



飛び入りで 戦争体験の語り部 が登場!

終戦の日は、天皇の玉音放送があるといわれ学校に集められました。戦争に負けて悲しんだ人は誰もいませんでした。神風特攻隊の話も聞きました。が、「天皇陛下万歳!」といった人は誰もあらず、「母さん!」といて死んでいったのです。とても心を打たれる内容でした。

おじさんは、戦争が終わる昭和二〇年四月に小学一年生になったんだ。五月で戦争が終わったけど、防空頭巾をかぶって学校の行き帰りをしました。ドンガイ(イタドリ)の葉はタバコの代わりになるというので集めました。ヤナギの葉は乾燥させ汚い水に入れると水がきれいになるといわれ、葉っぱを集めました。オオバコは、もんで傷につけると血止めになるといわれ集めました。

患者さんの田井中勝弘さんが、参加していた小学生と向き合い、次のようなお話をしました。



『戦争法案』を必ず廃案に!  
『戦争法案』を必ず廃案に!

8.30 国会 10万人  
全国 100万人行動

あさがお  
写真展



9月11日(土)あしべつ健康まつり

いのちの最大の敵  
それは戦争!

「健康講話」で舩田副所長がお話しします。12時平和診療所内

9月12日より10月30日まで  
平診内で開催します。  
「ふくろうの館」より  
バザーの出展もします  
多数ご参加下さい。

